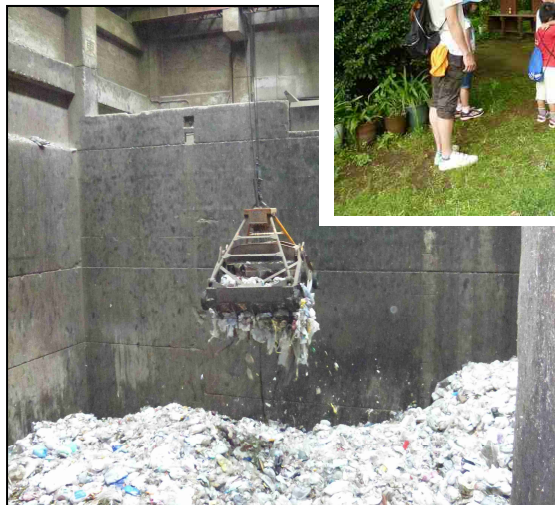
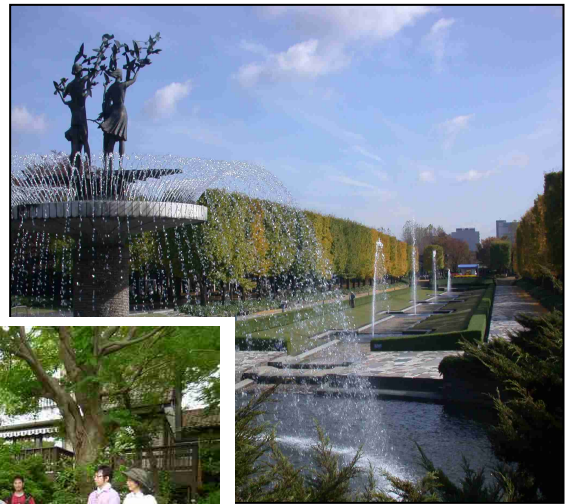
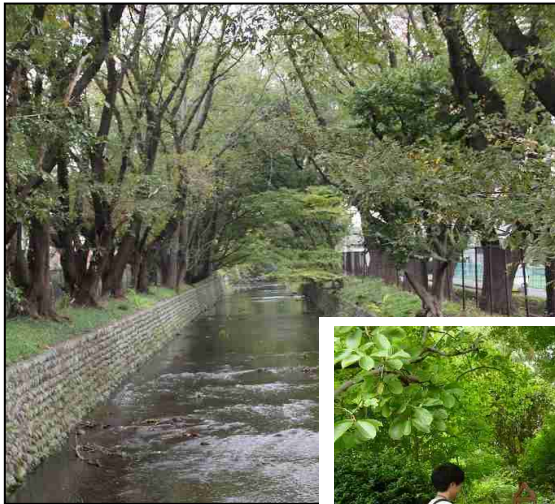


たちかわし環境ブック 2013

～特集：緑のカーテン～



はじめに

市では、立川市第3次環境行動計画の目標達成に向け、市民・事業者・市が連携・協働し、取り組みを進めており、その状況について「たちかわし環境ブック」で毎年お知らせしております。

環境問題を考える場合、まず足元の身近な環境に目を向け、環境の大切さを感じていただき、できることから実践していただくことが重要であると、市では考えております。

今回の環境ブックでの特集は「緑のカーテン」です。自宅や学校・職場などで、取り組みやすく、見た目も心地よい地球温暖化対策として近年、注目されています。

市は、太陽エネルギー利用機器及び高効率給湯器の設置補助や中小企業の省エネ改修への補助を行うなどして地球温暖化対策を進めておりますが、併せて植物を育てるといった身近な取り組みも並行して行っていただくことで、地球温暖化問題のみならず、他の環境問題にも関心をもつていただけるものと考え、緑のカーテンを取り上げました。

本編の内容は、経年的な資料性のあるものとしております。

第1部では、平成22度に策定した立川市第3次環境行動計画などで目標として掲げた数値をもとに、立川市の環境についての「過去」から「今」への変化をご覧ください。

第2部では、市内で環境保全活動に取り組んでおられる市民や事業者の方々のご活躍を紹介させていただきました。ここでは市の取り組みについてもご案内しております。

また、第3部では、平成24年度で終期を迎えました「立川市地域省エネルギービジョン」の総括も併せてさせていただきます。

資料編は、市内の大気汚染、騒音、振動、水質などの調査結果を掲載しております。

さらに、公共施設等の空間放射線量や焼却灰の放射能濃度、給食食材の放射性物質検査などの測定結果についても継続して取り上げております。

市は、平成27年度を初年度とする新たな環境基本計画等の策定に向けた、取り組みを開始いたしました。環境ブックでご紹介してきました様々な活動はもとより、市民の皆様の日々の積み重ねを大切に、策定に役立てていきたいと考えております。

最後になりますが、発刊にあたり、数多くの活動報告をお寄せいただいた市民・事業者の皆様にご尽力をいただきました環境審議会委員の方々にも心よりお礼申し上げます。

平成26年1月

立川市長 清水庄平

環境ブック 2013 の発刊に寄せて

2013年11月1日から立川市では、家庭ごみの有料収集が始まりました。紙やペットボトル、プラスチックなど資源にできる物は分別し、燃やせるゴミを最小限に減らすためです。

「たちかわ環境ブック2013」によれば、ゴミ減量への市民、行政の努力が実り、平成19年度には963グラムだった1日一人当たりのゴミ排出量が、24年度は802グラムに減り、資源化率は33.8%から36.6%に増えました。企業、行政活動から私たち市民一人ひとりの暮らしに到るまで、環境に負荷をかける行為は、その処理の費用を各々が負担する社会ルールが確実に根付きつつあります。

ゴミの有料化とは反対に、地球温暖化対策として、市は太陽エネルギー利用機器や効率の高い給湯器を市民が設置する場合、補助金を出しています。地下水を増やし、下水処理費を減らすために雨水浸透の施設費も助成しています。太陽エネルギーは1000件、雨水浸透には510件の予算が用意され、まだ十分に利用が可能です。

「環境ブック2013」版は、平成26年度をゴールとする市の環境基本計画に盛り込まれた様々な策を紹介しています。禁止や罰則のルールとは別に、経済的に得になる環境保護のルールを大いに活用し、暮らしの作法を改めていきたいものです。

環境ブック恒例の“特集”は「緑のカーテン」です。ゴーヤ、ヘチマ、アサガオなどツルが伸びる植物を建物の窓の外や壁面を覆うように育てて日差しを和らげ、室温の上昇を抑える工夫です。市内の多くの家庭、学校、事業所が環境省の「グリーンカーテンプロジェクト」に加わり、省エネ、ヒートアイランドの緩和、二酸化炭素の吸収を試み、暮らしの現場から温暖化軽減に努力を重ねています。関連して「緑のカーテンコンテスト」も行われ、立川市環境審議会の委員が判定に加わりました。

「環境ブック2013」はゴーヤなどの緑のカーテンの作り方を詳しく説明しています。土づくりから、植え付け、ネット張り、ツルの誘引、追肥の仕方などの作業をとおり、「暮らしと環境」のあり方を実感し、何かを実践する機会になるかもしれません。

第1部「数字で見るたちかわの環境」は、維持されることが望ましい環境基準と現実の立川市の環境の質の比較が大気、水、騒音、自然環境など数字で多彩に示されています。

横田基地の航空機騒音、五日市街道や新奥多摩街道沿いの自動車騒音が依然として環境基準を超え続け、対策を必要としています。また光化学スモッグの原因オキシダント濃度が、平成24年泉町の環境測定点で延べ97日、495時間環境基準を超えました。中国から飛来が問題となっている微小粒子状物質PM2.5は日平均、年平均値ともに環境基準内に収まっています。環境ブックは私たち市民の暮らしと環境の関係を鮮やかに描いています。ぜひ手にとってください。

立川市環境審議会会長 原 剛

環境ブックの作成にあたり、ご意見をいただいた、第8期立川市環境審議会の委員は下記のとおりです。

安藤 広和（副会長）、木村 信雄、久野 春子、小松 清廣、斎藤 正雄、武田 好史、中村 恭之、原 剛（会長）、牧谷 昌幸、溝淵 浩一、三宅 玉雄〈五十音順・敬称略〉

目 次

特 集 緑のカーテン	特-1
------------	-----

第1部 数字で見るたちかわの環境	1
1 地域概況	4
2 市の環境への取り組み	9
3 環境指標から見る環境	11
(1) 公害がなく快適にすごせるまちづくり	11
1 河川等におけるBOD	12
2 横田基地における航空機騒音	13
3 一般公害の苦情件数	14
4 自動車等の交通量	15
(2) 環境への負荷の少ないまちづくり	17
5 自動車等の交通量	17
6 市内各駅周辺の自転車収容台数（民間駐車場を含む）	18
7 市内放置自転車台数	18
(3) 自然と共生したまちづくり	19
8 補助金による雨水浸透施設設置個数	19
9 湧水量（測定地点11か所計）	20
10 保護樹林地面積	21
11 保存樹木数	21
12 生物種数	21
(4) 自然や文化にふれるまちづくり	22
13 市民一人当たり都市公園等面積	22
14 耕地面積	22
(5) 地球環境の保全と循環を基調としたまちづくり	23
15 一人一日当たり廃棄物（ごみ）総排出量	24
16 一人一日当たり燃やせるごみ排出量	24
17 資源化率	25
18 一人当たり年間水道配水量	25
19 市全体から発生するCO2等排出量	26
20 太陽エネルギー利用機器設置費補助件数	26
(6) 市民・事業者・市総参加の環境づくり	27
21 環境学習プログラムの実施回数	27

22	こどもエコクラブ数	28
23	市民協働の環境学習講座数	28
(7)	事業者としての市の率先した取り組み	29
24	市の全庁からのCO2排出量	29
25	市施設における水道使用量	30
26	市本庁舎における廃棄物(ごみ)排出量	30
27	市所有の低公害車の割合	31
28	市所有自動車の燃料使用量	31
4	様々な測定結果から見るたちかわの環境	32
(1)	大気環境	32
(2)	水環境	41
(3)	公害苦情	46

第2部 市民・事業者の活動と市の取り組み 47

	市民・事業者の活動	48
	市民・事業者の環境配慮行動の分野別体系図	48
1	公害がなく快適にすごせるまちづくり	49
	交通システム電機株式会社	49
2	自然と共生したまちづくり	50
	砂川・鳴く虫愛好会(旧名称:残堀川・鳴く虫愛好会)	51
	玉川上水の自然保護を考える会	52
	立川市立松中小学校	53
	立川崖線を守る会	54
3	自然や文化にふれるまちづくり	55
	立川市立新生小学校	55
	立川ホテルの会(旧名称:富士見町に蛭を呼び戻す会)	57
	立川・手づくり公園の会	58
	NPO法人 自然文化誌研究会	59
4	地球環境の保全と循環を基調としたまちづくり	60
	株式会社 いなげや	60
	立川商工会議所	62
5	市民・事業者・市総参加の環境づくり	63
	立川市立第二小学校	64
	立川市立第三小学校	65
	立川市立南砂小学校	66
	立川市立高松児童館	67
	なんでも遊び塾	68

立川かんきょう市民の会	69
たちかわ水辺の楽校運営協議会	71
東京ガス株式会社 多摩支店	72
NPO 法人 集住グリーンネットワーク	73
たちかわエコパートナー	74
生活クラブ生協 まち・立川	75
立川市食器再使用推進協議会	76
環境フェア実行委員会	77
市の取り組み	79
夏期の節電対策	79
たちかわエコパートナー講座	81
エコオフィスプラン 21	82
多摩川由来の崖線の緑を保全する協議会	83
消費生活関連事業の実施	84
環境関連講座の実施	85
環境関連講座の実施（子どもグリーンクラブ）	86
喫煙対策事業	87
中小企業 CO ₂ 排出量削減事業	88
大町森林保全隊	90

第3部 立川市地域省エネルギービジョン最終報告 93

立川市地域省エネルギービジョンについて	94
最終報告	97
1 立川市のエネルギー消費量	97
2 立川市の二酸化炭素排出量と排出係数	100
3 重要施策の評価	101
まとめ	112

資料編 資 - 1

1 調査地点	資- 2
（1）測定局	資- 2
（2）水質調査実施地点	資- 3
（3）道路沿道調査実施地点	資- 4
2 調査結果	資- 5
（1）大気汚染常時監視測定結果	資- 5

(2) 大気汚染常時監視測定結果経年変化	資-10
(3) 光化学スモッグ注意報発令状況	資-10
(4) 河川等水質調査結果	資-11
(5) 河川底質調査結果	資-18
(6) 湧水調査結果	資-18
(7) 地下水調査結果	資-19
(8) 立川飛行場に係る航空機騒音測定結果	資-20
(9) 横田基地に係る航空機騒音測定結果	資-22
(10) 道路沿道環境調査結果	資-23
(11) 公共施設のエネルギー起源による二酸化炭素排出量	資-28
(12) 立川市における放射線量測定の基本的な考え方	資-29
(13) 局所的な場所の空間放射線量測定結果について	資-40
(14) その他の立川市内の放射線・放射能に関する測定について	資-48
3 環境基準	資-65
4 用語解説	資-72

本文中で「*」がついた用語については、巻末の資料編で解説しています。
